

三六六二番

天あまの原はら 振り放ふけ見みれば 夜よそふけにける よし  
ゑやし ひとり寝ぬる夜よは 明あけば明あけぬとも

三六六三番

わたつみの 沖おきつ繩なはのり くる時ときと 妹いもが待まつら  
む 月つきは経へにつつ

三六六四番

志し賀かの浦うらに いざりする海あま人 明あけ来くれば 浦うら廻み  
漕こぐらし 梶かぢの音おと聞きこゆ